

# 税理士の ひとりごと

No. 148

てっぺんを目指さない

税理士 齋藤明

2週間、電波もろくに届かないような場所に行くとして、なぜそれを私は「恐ろしい」とか「チャレンジングな行為だ」とか思ってしまうのでしょうか？ それこそ先日私は2週間インドネシアの島々を廻る船上でタップリ時間があったので、そのことについて考えてみました。

ひと言で言えば、私は仕事や家族に恵まれているという自覚があり、それを失うことに恐怖心を抱いているのだという事に気が付きました。確かに、「調子に乗って、家庭や仕事をないがしろにしている」と、家族や職場の皆や顧問先から三行半を突き付けられたら…なんてことを想像すると、小心者の私の心臓の鼓動は少しだけ早くなってしまうのです。

ところが、あらためて今回の旅の同行者の話を聞いてみると、この2週間のボートトリップの前後にさらにバリ島やスンバワ島に滞在し、約1ヵ月日

本を留守にしているメンバーが数名いるのです。その方々は私の会計事務所などとは比較にならない規模の事業をお持ちで、まだ小さいお子さんもいるご家族をお持ちであつたりもします。

船上では、サーフィンをして、食事をして、寝ること以外何もすることがないので、メンバーと話をする時間が山ほどあります。そこで私は彼らに素朴な疑問を投げかけてみました。「仕事や家庭は大丈夫なんですか？」と。すると、意外な回答が返ってきました。「大丈夫じゃないかもしれないけど、心配ばかりしてたら何もできなくなっちゃうじゃありませんか」と。

ああ、なんとということでしょう。私は普段からここのエッセイや自身のブログなどで「諸行無常」などと書いておきながら、今私の手元にある幸せや恵まれた環境に恋々と執着して行動を起こすことを躊躇っていたんだなんて。私はその本質的な、この世のすべての